

数値目標の進捗状況と今後の方向性について

基本方針		指標 (目標年度:平成32年度)		目標数値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	現状分析と今後の方向性	
1	地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興	週1回以上スポーツをする市民の割合		70%以上	46.8%	48.6%	47.2%	51.4%	51.5%	44.6%	67.1%	67.7%	<p><b>【現状分析】</b>※詳細は別紙1(表1-1、1-2)のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成30年度市民意識調査で「週1回以上スポーツを行う」と回答した市民の割合は67.7%(前年比+0.6%)であり、これは全国調査の数値55.1%(対前年比+3.6%)を大きく上回っている。</li> <li>○ 市民意識調査の結果を年代別に分析すると、別紙1表1-1のとおり、全世代の中で最も低いのは30歳代の約55%であり、最も高いのは10歳代の約80%である。</li> <li>○ 週1回未満の方のスポーツの実施を妨げている要因については、別紙1表1-2のとおり、全体では「時間がとれない」が最も高く、「お金がかかる」、「興味がない」が続いている。年代別に分析すると、最も高い要因として、10代では「身近にスポーツする場所・施設がない」、20代～60代で「時間がとれない」、70代では「興味が無い」と「身近にスポーツする場所・施設がない」となっている。</li> <li>○ スポーツ実施率が上昇している要因として、スポーツによる健康増進の効果が少しずつ浸透している中、「高齢者いきいき活動ポイント事業」により、スポーツによる健康づくり・介護予防に取り組まれる高齢者の方が増えたことなどが考えられる。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供と環境づくりを進めるとともに、広報紙等を活用して、スポーツは過大な負荷をかけずとも日常の中で楽しみながら体を動かすことも含めてスポーツであることを周知し、日常生活の中にスポーツを取り込み、習慣化するきっかけづくりに取り組む必要がある。</li> <li>○ 特に仕事や育児が忙しい30代から40代に対し、通勤時や買い物時などの時間を活用したウォーキングや階段昇降など「ながらスポーツ」に取り組めるよう働きかける必要がある。</li> <li>○ 「高齢者いきいき活動ポイント事業」等を効果的に活用し、高齢者が地域との関わりを持ちながら、健康づくりや介護予防に主体的に取り組めるよう支援する。</li> </ul>	
		30分以上健康のために歩く70歳以上の割合		男66% 女56%	男57.9% 女47.9%	—	—	—	—	男69.2% 女60.8%	男66.5% 女66.1%	男68.2% 女66.3%		
2	学校における体育・スポーツの充実	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(高等学校は新体力テスト)の結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合	小学校	8種目中、7種目以上	—	5.5種目	6種目	5種目	5.5種目	5.5種目	4種目	4種目	<p><b>【現状分析】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校では、全国体力等調査において、前年比で全国平均値を上回る種目数が同じ数であり、数値目標を達成することはできなかった。</li> <li>○ 中学校では、全国体力等調査において、前年比で全国平均値を上回る種目数が減少しており、数値目標を達成することはできなかった。</li> <li>○ 高等学校では、新体力テストにおいて、前年比で全国平均値を上回る種目数が増加したが、数値目標を達成することはできなかった。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小・中学校においては、教員を対象とした実技研修会等の実施や、体力向上推進校の指定等、引き続き、体力向上に向けた施策に取り組む必要がある。</li> <li>○ 高等学校においては、各学校の課題やその解決に向けた取組を明確にするために、体力向上推進計画を立てるなどして、組織的かつ計画的な取組を進めていく必要がある。</li> </ul>	
			中学校	9種目中、7種目以上	—	5種目	6種目	5.5種目	7種目	5.5種目	6.5種目	5.5種目		
			高等学校	9種目中、7種目以上	5.3種目	5.5種目	5.3種目	5.8種目	4.7種目	3.3種目	3種目	4.8種目		
3	競技力の向上	国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手(ふるさと選手を含む。)の割合		65%以上	47.7%	57.5%	55.5%	57.7%	54.6%	49.7%	52.4%	51.0%	<p><b>【現状分析】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成30年度の広島市選手の割合は51%で、前年比約1%減少している。特に少年男子において柔道や体操などの広島県選手団の国体本大会への出場が無かったことから前年比で約10%減少している。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今まで以上に広島県の取組と連携を深め、ジュニア選手の発掘・育成を推進するとともに、ジュニア選手医科学サポートを積極的に活用し、国体出場選手に対するサポート体制を強化する必要がある。</li> </ul>	
4	まちの活力創出に向けたスポーツの振興	トップス広島に加盟するチームの試合を年1回以上会場で観戦した市民の割合		50%以上	37.2%	37.1%	37.0%	39.8%	41.7%	43.2%	43.8%	46.3%	<p><b>【現状分析】</b>※詳細は別紙1(表2)のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観戦率は年々上昇傾向にあり、特に女性の観戦率が、別紙1表2のとおり、約3%上昇している。なお、平成30年度は、過去8年間の市民意識調査における最高値である。</li> <li>○ また、年代別に分析すると、70歳代が全世代の中で最も低く、約38%であり、20歳代が全世代の中で最も高く、約57%である。</li> <li>○ チーム別では、カーブが44%で最も高く、次にサンフレッチェが8.3%、JTが1.6%と続いている。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリンピック関連事業や国際大会の開催・誘致などにより、市民のスポーツに対する関心を高めるとともに、カーブとサンフレ以外のトップス広島加盟チームの試合観戦を促進する取組を進める必要がある。</li> </ul>	

